



きれいな目を守るため、正しい使用を カラーコンタクトレンズ

10代〜20代女性の三種の神器の一つと言われているカラーコンタクトレンズ(以下カラコン)を知っていますか。最近は使い捨てタイプが主流で、色も茶系が多く、目を印象的に大きく見せる、いわゆる「目ヂカラ」エッセンス「アップ」の効果があります。ちなみに三種の神器のあと二つは、付けまっげとアイライナーで、目ヂカラブームは当分続きそうです。

小中高生のコンタクトレンズ(以下コンタクト)の使用状況については、日本眼科医会が平成12年から3年毎に行っている全国調査があります。平成24年の調査結果によると、使用割合は小学生0.2%、中学生7.3%、高校生27.7%で、前回の調査結果と比べて小学生は変化がありませんでしたが、中学生では増加していることがわかりました。

カンコン級検査者は中学生

4.4%、高校生11.6%で、前回

の調査の中学生 2.2%、高校生3.3%に比べて大幅に増えました。また、コンタクトを使用する中高生の4割以上が目の異常を経験しており、失明の恐れもある感染性角膜炎、角膜潰瘍なども報告されています。そのうち15%は目の定期検査を受けず、6%は通販やインターネットでコンタクトを購入していたこともわかりました。

コンタクトは高度管理医療機器に指定されています。販売管理者のいるところでしか購入できないことになっていますが、実情はそうではありません。なかにはコンタクトから色素が漏れ出す粗悪品もあります。コンタクトは目にとって異物であり、また医療機器であるという意識を持ち、眼科専門医による定期検査を受けましょう。異常を感じたら装用を中止して眼科医の診察を受けてください。

吹田市医師会 稲澤 かわり